翠巒
Mini Press
第187号
2024/12/13

編集・発行
高崎高校新聞部

「ましも商店」復活

高高生の憩いの場所に

商店復活について話す天田さん

復活の理由語る

店主 天田妙子さん

かつて、「真下商店」という店が、高高の正門前にあったのをご存じだろうか。真下商店は昭和42年に開店し、カップ麺やカレーライス、駄菓子などを販売し、多くの高高生が利用していた。２０１２年に惜しまれつつも閉店したが、当時の店主の娘である天田妙子さんが、今年の11月2日に「ましも商店」として復活させた。

11月2日に約12年ぶりにましも商店が復活した。そこで、店主の天田妙子さんに話を聞いた。

前身の真下商店の閉店理由について、「父が亡くなってから、母が一人で営んでいた。しかし、年を重ねるにつれて、仕入れが大変になったことや防犯上の問題から閉店した」と述べた。

続いて、なぜ12年ぶりに復活することを決めたのかについて、「もともと教員だったため、再任用という選択肢もあったが、学生や地域の人々に貢献できることをしたいと思った。近くに学校があるのに閉店したままではもったいないと思い、復活させることを決意した」と語った。

次に、どのような客層を対象としているかについて、「ましも商店は、高高があるから営んでいるのはもちろんだが、地元の小学生や中学生、高高の卒業生、地域の人々など幅広い年齢層に来てもらえる店にしたい。実は、店舗以外にも和室があり、今後は、習い事の場所や勉強スペースなどとして有効活用していきたい」と話した。

また、ましも商店を利用している高高生の印象について、「部活動の帰りに来てくれる高高生が多い。挨拶をきちんとしたり、食べた食器を片付けてくれたり礼儀正しい生徒が多い印象がある」と述べた。

さらに、今後のましも商店の展望について、「頑張って続けていきたいと思う。高高生の中には遠くから来ている生徒もいるので、帰る前に立ち寄って腹ごしらえしたり、悩みがある生徒が気軽に相談できたりする場所を目指したい。また、検討中ではあるものの、土曜日や日曜日にこども食堂を開設することも考えている。こども食堂を支えてくれる企業があるならば、販売しているカレーをさらに安く提供できるだろう。これらのことを通じて地域のネットワークをつなげられる店にしていきたい」と話した。

最後に、高高生に向けて、「今しかできないことや受験勉強に励む高高生の思い出に残るようなましも商店にしたいと考えている。いつでも待っているのでぜひ来店してほしい」とインタビューを締めた。

（木村）

当時の真下商店を振り返って

OBインタビュー

当時を振り返る飯野先生（左）と小林先生（右）

真下商店が復活するにあたり、高高の卒業生で、在学時に真下商店をよく利用していた小林裕貴先生、飯野道彦先生に話を伺った。

まず、真下商店を高高生として利用していた時によく購入していた商品について聞くと、小林先生は、「カップラーメンとおばちゃん手作りのカレーだ。冬は特に帰宅前のエネルギー補給としてよく食べていた」と話し、飯野先生は、「１００円カレーだ。１５０円、２００円と値段によって量が増えていた。加えて、昔の駄菓子屋にあるような瓶のジュースをよく買った」と話した。

次に、以前の真下商店の印象について、小林先生は、「元気なおばちゃんのいるお店という印象がある。また、先輩も同級生も後輩も多くの生徒が利用していた。生徒会や実行委員の友だちは、ほぼ自宅のように上がりこんで食事などをしていた」と語り、飯野先生は、「放課後に加え、私たちの時代は土曜日（半日授業）があって、授業後にお昼を食べている生徒が多かったのが印象に残っている。また、冬はこたつが用意され、そこで暖まっている生徒もいた」と語った。

最後に、小林先生が、「高高生の〝心と胃袋を満たす真下〟になるはずだ。お世話になってほしい」と述べ、飯野先生が、「卒業生の人と話をすると、〝翠巒祭〟や〝定期戦〟と並んで世代を超えて話題になるのが〝真下商店〟だ。高高の3年間は、どんな世代の人も同じような道を辿っている。そのため、卒業生の人と話をするときに話のネタになる。そんな高校生活のひとつの思い出が増えるのかなと思う」と、現高高生に向けてメッセージを送った。

（樋口）

駄菓子からカレーまで

安価で豊富な商品

店内の様子

ましも商店では、高高生を魅了する様々な商品を販売している。バラエティに富んだ駄菓子やカップラーメン、アイスやグミなどを購入ができ、店内での食事もできる。また、店主の天田さんが作るカレーライスやフライドポテトも販売している。

天田さんに商品について話を聞くと、「駄菓子は安く売っているため人気がある。また、アイスも買う人が多い。おすすめの商品はカレーライスだ。肉や手作りのらっきょうを使った、辛めの仕上がりになっている。売っている商品は、高高生の小遣いの負担にならないようになるべく安く販売している。要望があれば、新しい商品の追加も考えている」と話した。

（福田）

人気商品のカレー（380円）

紙面割　表・荒井　裏・荻野